

名市大のキャリア教育

本学では、2016年度の教養教育カリキュラム改革において、初年次教育科目（「社会人になる」、「大学生になる」、「大人になる」、「NCU 先端科目」）を開設しました。今回は、「社会人になる」を開設時から担当されている高石教授（システム自然科学研究科・高等教育院長）より、授業内容の紹介と、アンケートに基づく授業評価、今後の課題等について寄稿いただきました。

授業内容紹介

「社会人になる A」 [2ターム制] (以下は 2019 年度 前期開講分)

- | | | |
|--------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 第 1 回 | 「キャリア教育の意味」 (高石) | |
| 第 2 回 | 「所属学部のキャリアパス」 (各学部代表教員) | |
| 第 3 回 | 「社会人基礎力とは」 (就職コンサル企業) | |
| 第 4 回 | 「働き方を考える (一般企業と公務員)」 (企業ゲスト&公務員ゲスト) | |
| 第 5 回 | 「生きるためのコストを考える」 (高石) | |
| 第 6 回 | 「女性の働き方」 (企業ゲスト) | |
| 第 7 回 | 「世界の中の日本」 (企業ゲスト) | |
| 第 8 回 | 「社会人とは」 (企業ゲスト) | |
| 第 9 回 | 学内模擬インターンシップ (就職コンサル企業 & 高石) | } グループ
ワーク
(課題に対する
企画・プレゼン) |
| 第 10 回 | 学内模擬インターンシップ (就職コンサル企業 & 高石) | |
| 第 11 回 | 学内模擬インターンシップ (就職コンサル企業 & 高石) | |
| 第 12 回 | 学内模擬インターンシップ (就職コンサル企業 & 高石) | |
| 第 13 回 | 「キャリア振り返る」 (就職コンサル企業) | |
| 第 14 回 | 「自分の生き方をデザインする」 (就職コンサル企業) | |
| 第 15 回 | 「これからを、どう生きるか」 ; 総括 (高石) | |

「社会人になる A」では、就職コンサル企業の講義や企業等からのゲストによる講話を通して学生自身に「数年後には社会に出て働く」ことを意識させ、大学時代をそのための準備期間として有効に使うことを伝えます。

「社会人になる B」では、様々な企業・団体に所属するゲストに業界代表としてその社会的役割、やりがいなどをご紹介いただき、学生が将来どのような職業に就くかを考えるきっかけを与えることを主な目的としています。これら以外にも、錚々たる企業にご協力いただいています。

「社会人になる B」 [2016-2017 2ターム制、2018~ 半期制]
(以下は 2018 年度 後期開講分)

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 第 1 回 | 「求められる人材と社会人基礎力」 (就職コンサル企業) |
| 第 2 回 | 「雇用・労働環境の変化と業界・企業の分析の仕方」 (就職コンサル企業) |
| --- | 「業種・業界の仕事を知る」 (企業ゲスト: 40分×2団体) --- |
| 第 3 回 | 三菱 UFJ 銀行・NTT ビジネスソリューションズ |
| 第 4 回 | 東京海上日動火災・三井不動産リアルティ |
| 第 5 回 | ヤマザキマザック・メナード化粧品 |
| 第 6 回 | 鹿島建設・オービック |
| 第 7 回 | 旭化成ヘーベルハウス・中部電力 |
| 第 8 回 | 「就活を終えた本学 4 年生に聞いてみる」 (4 年生ゲスト) |
| 第 9 回 | 中日新聞・愛知県警 |
| 第 10 回 | (人事院)・経済産業省・外務省 |
| 第 11 回 | ヤマト運輸・江崎グリコ |
| 第 12 回 | ベンチャー企業 (CURUCURU) |
| 第 13 回 | 三菱商事・日立製作所 |
| 第 14 回 | 「企業・業界を知るために今後なすべきこと」 (就職コンサル企業) |
| 第 15 回 | 「総括」 (高石) |

授業評価アンケート結果

表1に各科目の履修者数、アンケート回答者数、最終授業終了後に行ったアンケートの総合評価（5点満点）、授業内に行った独自アンケートの結果（質問1、2、各4点満点）を示しました。

「社会人になるA」はこれまでに1200名を超える履修者があり、全8期の総合評価は 4.09 ± 0.17 （平均±標準偏差）です。「社会人になるB」については、400名弱の履修者があり、全5期の総合評価は 4.44 ± 0.08 と極めて高い数値となっています。

独自アンケート（「このような講義は1年生に必要なと思うか」「講義を通して働くことへの意識が高まったか」）の結果を見ると、「回答4：強く思う」と「回答3：そう思う」の合計は8割後半から9割後半を示しており、これらの結果は、この授業が文字通り1年生の段階から「社会人になる」ことを意識させる役割を果たしていることを示唆しています。

表1 評価アンケート結果

社会人になるA(前期科目)

		履修者数	回答数	総合	4+5(%)	質問1	3+4(%)	質問2	3+4(%)
2016	1T	149	136	3.99	77.2	アンケート実施せず			
	2T	81	60	4.10	78.3				
2017	1T	160	145	4.31	93.2	3.60	93.8	3.48	92.5
	2T	137	120	3.97	73.2	3.40	83.7	3.29	87.0
2018	1T	178	162	4.13	79.0	3.45	92.0	3.27	86.4
	2T	178	152	3.79	64.1	3.39	83.7	3.25	77.8
2019	1T	179	153	4.28	83.7	3.59	98.7	3.39	94.8
	2T	178	122	4.10	76.2	3.62	98.4	3.45	94.8
		1240	1050	4.09	78.1	3.51	91.7	3.36	88.8
				0.17	8.3	0.11	0.7	0.10	6.5

社会人になるB(後期科目)

		履修者数	回答数	総合	4+5(%)	質問1	3+4(%)	質問2	3+4(%)
2016	3T	58	57	4.51	93.0	3.84	100.0	3.54	98.3
	4T	46	39	4.33	84.6	3.62	92.3	3.46	89.7
2017	3T	66	58	4.52	89.7	3.81	96.6	3.70	94.8
	4T	88	76	4.41	81.6	3.75	98.7	3.46	93.4
2018	後期	116	91	4.45	87.2	3.58	95.7	3.33	94.7
		374	321	4.44	87.2	3.72	96.7	3.50	94.2
				0.08	4.4	0.12	0.0	0.14	3.1

総合評価（5点満点）

質問1 このような講義は1年生に必要なと思うか（4点満点）

質問2 講義を通して働くことへの意識が高まったか（4点満点）

💡先輩が後輩へオススメしたい授業

表2は、「社会人になるA」の授業初回に実施しているアンケート（但し2016年度は実施せず）のうち、「授業選択の理由」に関わる結果です。過去に授業を履修した学生に、この授業を選択した理由を聞いたところ、「先輩の勧め」を理由に挙げている者が最も多く、勧められた理由の7割強を「有益」が占めています。（2017年度は「理由」を問う項目を設けていなかった）

表2 2017-2019 前期授業 初日アンケート

この授業を選択した理由

	ガイダンス	シラバス	先輩の勧め	何となく	未記入
医	2	5	3	11	0
薬	22	23	65	18	0
経	71	53	126	82	9
人	73	72	88	40	0
芸	18	24	76	37	5
理	23	3	31	3	0
全体	209	180	389	191	14

先輩の勧めの理由 (2018年、2019年のみ)

	先輩の勧め	有益	楽単	未記入
医	3	3	0	0
薬	20	13	7	0
経	102	79	22	1
人	29	19	10	0
芸	41	24	14	3
理	31	28	3	0
全体	226	166	56	4

※未記入4名

←「この授業を選択した理由」

- ・ガイダンスを聞いて
- ・シラバスを見て
- ・先輩の勧め
- ・何となく
- ・その他 から選択

←「先輩の勧めの理由」

- ・有益だったから
- ・簡単に単位が取れるから
- ・その他 から選択

💡 文系学部の学生の反応は？

「社会人になるB」の授業の最終回では、学生に「就きたい仕事・就こうと思っている仕事について受講の前後で変化があったか」を学生に尋ねています。表3は、文系学部（経済学部・人文社会学部）の履修者についてのみ抜粋してその結果を集計したものです（2016年度はアンケートを実施せず）。両学部とも受講前は公務員志望が最も多いのですが、受講後には「企業」を志望する学生が最多となっています。

ちなみに、欄外の青字は、受講前に「公務員志望」と回答した学生のうち、身内からの勧めがあった者の数を示したのですが、受講前の17人が受講後では4名に減っていることは興味深い点です。この授業が、自分の進路を自分で考えるきっかけになったのではないかと考えています。

表3 2017-2018 後期授業 最終日アンケート

		受講前		受講後(内訳)			
				自営	公務員	企業	未定
経済学部 (112名)							
受講前	公務員	39	17	0	9	25	5
	企業	31	74	0	3	25	3
	士業(会計士、税理士など)	10	3	3	2	4	1
	未定	32	18	0	3	20	9
	公務員のうち、身内の勧めあり	4		1		3	
人文社会学部 (92名)							
受講前	公務員	39	15	0	12	23	4
	企業	22	63	0	0	21	1
	士業(会計士、税理士など)	1	0	0	0	1	0
	未定	30	14	0	3	18	9
	公務員のうち、身内の勧めあり	13		3		7	3
経済&人社(204名)							
受講前	公務員	78	32	0	21	48	9
	企業	53	137	0	3	46	4
	士業(会計士、税理士など)	11	3	3	2	5	1
	未定	62	32	0	6	38	18
	公務員のうち、身内の勧めあり	17		4		10	3

学生のコメントから見えてきたこと

経済学部、人文社会学部の受講者にアンケートをすると、入学当初は「公務員志望」あるいは「進路未定」と答える者が約 7 割を占めています。ただし、受講後に再びアンケートをとると、公務員志望者は半減し、企業志望者が全体の約 7 割となります。

受講後のコメントペーパーには、「授業を通して視野が広まった」、「世の中にはいろいろな仕事があることが分かった」、「地域貢献は公務員以外でも出来ることが分かった」、「企業の方の話を聞いて、自分も広い世界で働きたくなった」などのコメントが多数見受けられ、また、授業以外の場面でも、「新聞やニュースを見るようになった」、「知らない会社名を聞いた際にはスマホで調べるようになった」、「インターンシップ先を検討している」、「コミュニケーション能力をつけるために接客のアルバイトを始めた」など前向きなコメントが寄せられており、これまで自身の将来について考えることのなかった学生に対し、この授業が一定の役割を果たしていることが考えられます。

一方、前期の授業で行った「自身の将来について、親と話すことがあるか」との質問に対して、1,000 名近い回答者の 9 割が「ある」と答えています。この数値や、授業の中で学生から回収したコメントペーパーの記述、あるいは、授業にご協力頂いている企業の方々からお聞きする就活学生の発言などからは、親が子に対して「地元で安定した仕事に就くこと」を強く勧める実態が見て取れます。

今後の課題

今年度、前期の授業の最終日に「大学に何を望むか」と学生に質問したところ、「社会人になる A の受講者数制限をなくして欲しい」、「グループディスカッションのある授業を増やして欲しい」、「何度も抽選に落ちたので改善して欲しい」などに加え、「視野を広げる授業、社会に対する理解を深める授業を増やして欲しい」という要望がいくつも寄せられました。資金が限られた中で多様な授業を学生に提供することは簡単ではありませんが、学生の学修意欲を満たすことは大学の義務です。本学の教養教育の責任者として、その務めを果たしていきたいと思えます。

今、大学には「学修成果の可視化」、すなわち、大学はどのような授業を学生に提供し、それを通して学生にどのような力がつくのか、力をつけた学生がどういった人材に育っている（どこに就職している）かの提示が求められています。本授業にはこれまで 50 を超える企業、団体にご協力いただきました。その中に「モノづくり愛知は将来も安泰」と考えるところは 1 つもなく、某経済団体は東海圏の 30 年後の GDP は現在の 81 兆円から 56 兆円に縮小すると予測しています。公立大学である本学もちろん安泰ではありません。「将来を切り拓く力」を修得させる教育の実現に向け、全学部の教員の方々には、より一層のご協力をお願いいたします。

事務局教務企画室より

『NCU 高等教育院通信』の最新号をお届けいたします。全学の FD 活動や各部局における取り組み、旬なトピックスなど、“教育”に関する話題を広く皆様に提供していきますので、ご愛読いただければ幸いです。ぜひ取り上げてほしい話題などありましたら、下記までご連絡ください。